

1年次 産業社会と人間

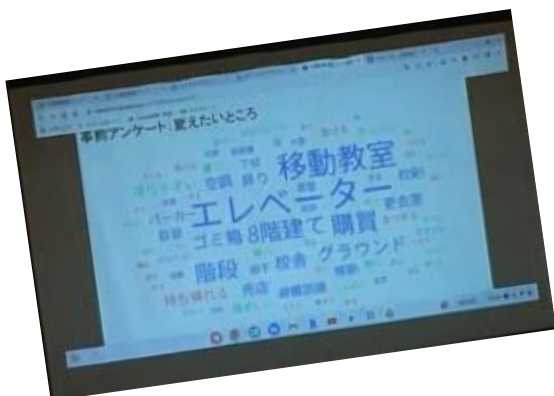
主権者教育 自分ができるところから「行動しよう」

主権者として思考・判断し、行動に移そう

5月30日の1年次「産業社会と人間」では、主権者教育の一環として自分たちの学校をテーマに実際にできることを考え、行動することの大切さを学びました。事前のアンケートで学校のよいところ、変えたいところを出してもらい、課題について自分の問題として捉え、自分たちがどう主体的に解決に向けて取り組んでいけるのかを考えました。今回は「学校」がテーマですが、それを「社会」に変えて主権者として行動できるようになってもらいたいものです。



クロームブックがひとり1台貸与されることになったので、それぞれが持参してその場で入力します。



不満を抱くだけでなく、どうしたら自分たちで変えられるかを考え、「行動」に移せる主権者になれるといいですね。



1年次 産業社会と人間

ファンケル神奈川SDGs講座の開催

食料・栄養課題について考えました

5月23日の1年次の「産業社会と人間」では、昨年に引き続き株式会社ファンケルの皆様にお越しいただき、ファンケル神奈川SDGs講座を開催していただきました。前半は「もっと何かできるはず」を経営理念に掲げるファンケルの事業やSDGsの推進の取り組みを共有しました。後半は、食料・栄養課題のうち食品ロスや日本の若者の栄養課題に焦点を当て、グループワークをしながら課題解決に向けての取り組みを生徒自身が考えていきました。日本の「食品ロス」問題については、どのような対策ができるかをグループで考え、すぐにできそうな対策を挙げていきました。また、食料・栄養課題というと発展途上国における課題と捉えがちですが、「若者の栄養課題」の現状から、無理なダイエットなどに起因する栄養の偏りや嗜好品の取りすぎなどが生活や身体に与える影響についても考えていきました。今日の講義をきっかけに身近なところから社会の課題解決に向け行動していただきたいと思います。



積極的に手をあげる生徒が多かったです。



講演後にはファンケルの人気商品をいただきました。↓



今年もテレビ神奈川の取材がありました。放映が楽しみです。

1年次 産業社会と人間

金融教育 ライフプランを考えよう

ライフイベントからお金のことを考えました

5月9日の1年次「産業社会と人間」では、ソニー生命保険株式会社のライフプランナーの方々を講師にお迎えし、ライフイベントとそれに伴い必要となるお金のことについて学びました。「30歳の自分を考えよう」と題し、仮想の4人家族をロールモデルとして「人生のどんな時期にどんなイベントがあり、それにはどんな費用が掛かるか？」というところから、少し先の自分の人生とお金について考えていきました。シミュレーション画面で必要なお金や足りないお金がすぐにわかり、どうやって足りない部分を補っていけばよいかを考える中で、保護者の方々の苦勞を垣間見ることもできたかと思えます。今回の講義が、これからのライフプランや今の自分にとって、何が必要かを考えるきっかけになればと思います。



総合学科の必修科目である「産業社会と人間」では、仕事や社会の変化について知ることから、自分の生き方やどのように社会に貢献していくかを考えていきます。